

令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

令和5年5月

世羅町教育委員会

1 教育委員会議、教育委員の活動

- (1) 令和4年度の教育委員会議開催実績
定例会12回、臨時会6回、総合教育会議2回
- (2) 令和4年度教育委員による教育施設の訪問
小学校4校、中学校3校、大田庄歴史館
- (3) その他教育委員の活動実績
各小・中学校入学式、卒業式、運動会、公開研究会など44回

2 評価の方法

- (1) 重点施策
基本方針に基づく重点施策を記入しています。
- (2) 取り組み方策
重点施策を実施するうえでの取り組み内容を記入しています。
- (3) 目標設定
目標達成のための設定基準を設け、達成状況を点検します。
- (4) 評価
つぎの評価基準に基づき、進捗度・達成度を評価します。

①進捗度

| | |
|---|----------------------|
| 4 | 予定より進んでいる（100%超える） |
| 3 | 予定通り進んでいる（91～100%） |
| 2 | 遅れているが、取り戻せる（60～90%） |
| 1 | 大幅に遅れている（60%未満） |

②達成度

| | |
|---|------------------|
| 4 | 目標を上回る（100%超える） |
| 3 | ほぼ目標どおり（91～100%） |
| 2 | 目標を下回る（60～90%） |
| 1 | 目標を大幅に下回る（60%未満） |

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業等については「-」と表記する。

※同一項目内に実施事業等と中止事業等が混在するものについては、実施事業等についての評価とする。

令和4年度【年度末評価】事業評価表(自己評価表)

〔基本方針〕

1 児童・生徒の学ぶ意欲を育て、確かな学力を付けます

世羅町教育委員会 <学校教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|---|--|---|-----|---|--|
| (1) 生きる力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 | ○世羅町版「学びの变革」進捗状況チェックリストの活用 | ①本質的な問いを取り入れることで、どのように授業改善を図りたいか、自分の言葉で説明できるようにする。 ②児童・生徒に深い思考を促す授業づくりを実施するため、日常的にICTを活用している教諭の割合を100%に近づける。 | 3 | ・町内の小・中学校の教諭84名に世羅町版「学びの变革」進捗状況チェックリストを実施した結果を以下に述べる。 ①町内全小・中学校の教諭のうち84.5%（中間75.0%）が自分の言葉で説明できている。一人一人の教諭が、何を目指して授業改善に取り組んでいるのかが明確になってきつつある。 ②日常的にICTを活用している教諭の割合は、85.7%（中間80.9%）であった。管理職や担当教諭等の働きかけにより、2極化しつつあった教諭のICT利活用は改善されている。 | ①本質的な問いを取り入れやすい教科に差が出てきており、特に中学校（74.6%）において顕著である。町主催研修や校内研修を通じて、各教科の特性に応じた本質的な問いを再確認し、単元を貫く問いを常時設定できる力量形成を図る。 ②改善されつつあるが、学校間や教職経験年数等によっては、まだ差があると捉えている。今後は、日常的に且つ効果的にICTを利活用できるよう、校種間や推進教師の連携をさらに強化し、交流を促進する。 |
| (2) 特別支援教育の充実 | ○特別支援教育コーディネーターが主体となる研修内容の改善 ○保護者のニーズに応じた取組 | ①町主催の特別支援教育に係る研修を実施し、研修を通して「個別的教育支援計画等」の修正及び改善を図った各学校の割合を100%にする。 ②将来の進路等を見据えた児童・生徒への指導及び保護者のニーズに応じたリーフレットを作成する。 | 4 | ①月1回又は学期に1回は、修正及び改善を図った各学校の割合は100%（中間100%）であり、町内全ての小・中学校において修正及び改善が図られた。 ②令和4年12月に「世羅町就学ハンドブック～子供たちの社会的な自立に向けて～」を作成することができた。また、町教委のホームページでも閲覧可能にしており、幅広く周知することもできている。 | ①各学校全てにおいて、保護者連携を密に行い、個別の状況に応じた改善が図れている。今後は、特別支援コーディネーターを中心に、児童生徒個々の障害種等に応じた授業改善を図る。 ②引き続き、世羅町内の現状を踏まえつつ、東部管内等の各市町教育委員会と連携し、より保護者のニーズに応えられる取組を推進する。 |
| (3) 幼保小連携・小中連携の充実 | ○幼保小接続コーディネーターが主体となる連携の在り方の改善 | ①幼保小連携協議会を実施し、適切な就学に向けた小学校区の連携を年間3回以上実施する。 ②年間1回は相互に授業参観を実施することを通して、全ての小学校において、スタート・カリキュラムの見直しと改善を図る。 | 4 | ①次年度入学する園児の学校見学等を含め、平均6.7回（中間1.7回）実施することができた。メールや電話等を含めると20数回の連携があり、コロナ禍で十分できなかった連携を強化することができた。 ②月1回又は定期的に授業参観されている学校もあり、スタート・カリキュラムの見直しや改善は、全ての小学校（中間1/4校）で図ることができた。 | ①及び② 校区内における幼保小連携は、強化することができている。一方で、スタート・カリキュラムの見直しや改善は図っているものの、保護者のニーズや児童一人一人に応じた教育課程の改善までは至っていない。県教委の担当者と連携し、実りある新たな研修を実施するなど、さらなる改善を図る。 |
| (4) 地域と学校の連携・協働の推進 | ○コミュニティ・スクール推進に向けた研修の実施及び改善 | ①コミュニティ・スクールの目的や意義等、ベクトルを揃えるために、校区内で教職員研修を計画し、研修参加率を85%以上にする。 ②各学校での研修を1回以上は実施し、次年度に向け「社会に開かれた教育課程」の見直し・改善を図る。 | 4 | ①町主催の研修参加率は、中間と同様に34%であるが、校内研修等に参加し、内容把握等に努めた教職員の割合は概ね100%である。 ②全ての小・中学校で実施されており、年間を通じて学校運営協議会を3回実施された。また、協議会で得た意見をもとに、令和5年度に向け「総合的な学習の時間」を中心に、教育課程（シラバス）等の見直しを図った。 | ①引き続き、町内の全ての教職員が、コミュニティ・スクール導入の意義を正しく理解し、令和5年度の教育課程（シラバス）の改善に向けたアイデアを出し合い、充実した熟議等ができるよう指導・助言を行う。 ②学校と地域がWin-Winの関係を築き、地域の活性化につながる「社会に開かれた教育課程」となるよう、引き続き校長会議や町主催研修等を活用し、指導・助言を行う。 |
| (5) 教育環境整備の充実 | ○ICTを有効活用するための環境整備の充実 | ①学習用アプリケーションソフトやデジタル教科書（各教科等）及び校務支援システム導入の必要性や予算面等を勘案しつつ、令和5年度に向けた環境整備について研究する。 | 3 | ①校務支援システム導入を、すでに導入されている市町教育委員会と連携し、研究した結果、教職員数の多い市町は、ベクトルを揃える上で有効であるが、本町で導入した場合、教職員数や費用対効果等を鑑み、導入は難しいと判断した。また、デジタル教科書等については、今年度実証事業として実施しており、引き続き文科省の動向等を踏まえ研究を進めていく。 | ①これまでに導入した電子黒板の不具合が数件発生している。また、特別教室等のWi-Fi環境整備の充実が課題となっている。そこで、各ICT機器導入に係るロードマップを作成し、関係者と連携を図りながら、優先順位を付け、計画的に環境整備の充実に努める。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

令和4年度【年度末評価】事業評価表(自己評価表)

[基本方針]

2 夢や志を育む教育活動を進め、豊かな心を育てます

世羅町教育委員会 <学校教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|---------------------|-----------------------------------|--|-----|--|---|
| (1) 道徳教育の充実と生徒指導の推進 | ○道徳科における道徳的判断力・実践意欲の育成 | ①児童生徒アンケート調査を通じて、道徳科で学んだことが、日常生活場面や地域活動等で生かすことができていると回答した児童生徒の割合を100%にする。 | 3 | ①児童生徒アンケート調査における、児童生徒の肯定評価は96.5% (中間85.7%) となっており、道徳科で学んだことが、日常生活等に生かされており、一定の成果として表れていると捉えている。 | ①地域活動の場面において、コミュニティ・スクールを活用した取組が推進できるよう、児童・生徒の実態を踏まえながら、意図的・計画的にカリキュラムマネジメントを改善していく。 |
| | ○不登校等における児童生徒理解に係る研修の実施及び校区内連携の強化 | ①各学校及び校区内で月に1回程度、情報共有する場を設定する。 ②不登校傾向の子供達個々の実態に応じた対応をすることにより、状況が好転した割合を増やす。 (※好転とは…登校日数増、オンライン参加、SSRや高野塾に参加、家庭訪問時の状況変化等を指す。) | 2 | ①全ての学校において、月1回以上設定できている。また、教職員間での情報共有を、休業中等を活用し集中して実施し、個々の実態把握に努めている。 ②不登校等の一人一人の子供の状況は好転傾向であり、約8割 (中間5割) が、登校日数が増えたり、家庭訪問において顔を出すなど少しずつ改善できている。しかし、不登校等の数は、昨年度と比較し小学校で4名、中学校で17名と大きく増加しており、喫緊の課題であると捉えている。 | ①及び② 好転した事例の割合は増えてきているが、不登校等数の減少には至っていない。令和5年度は、中学校校区を基本として情報共有する場を増やし、さらなる改善ができるよう、町教委が主体となって推進していく。引き続き、SSR、SSW及び高野塾との細かな連携を行い未然防止策を検討する。 |
| (2) 読書活動の推進 | ○児童生徒の読書習慣の確立に向けた取組の充実 | ①各学校で児童・生徒が主体的に読書活動を習慣化するための取組を実施する。 | 3 | ①取組割合は100% (中間100%) である。図書支援員が児童生徒がより興味を引く本の配置を考えたり新刊を購入したりすることで興味・関心が高まっている。また、児童生徒アンケートによる新刊購入を行ったり図書委員に学級文庫を選定させたりと児童生徒が主体となった取組を始めたことも好転した成果として捉えている。 | ①主体的に児童・生徒が、本を読むことを習慣化する取組は行われるようになったが、まだまだ個人差があり、自ら本を手に取り、学習に生かす姿は少ない状況があることを各学校の管理職から伺っている。令和5年度は、保護者を巻き込んだ読書活動の推進を図る方策を検討する必要がある。 |
| (3) 体験活動の推進 | ○教育課程及び年間指導計画の修正及び改善 | ①地域資源 (人・もの等) を生かし、発達段階に応じた体験活動を年間計画に位置付け、実施する。 | 4 | ①実施割合は100% (中間97.1%) である。ここ数年間、コロナ禍で実施できなかった体験活動を、令和4年度当初の計画通り実施することができた。 | ①引き続き、発達段階に応じたものになっているのか、系統性はどうかなど吟味し、各学校ごとに特色を生かした体験活動が実施できるよう指導・助言していく。そのために、他の市町の取組等について情報収集する。 |
| (4) 特色ある学校文化の継承 | ○地域に根差した学校文化の継承 | ①各学校の特色を生かした学習発表会・文化発表会を実施する。 ②コロナ禍でも持続可能な新しい「輝くせらの学校文化発表会」の準備・検討委員会を開催し、令和5年度に向けた計画を立案する。 | 3 | ①全ての小・中学校において、各学校の特色を生かし、創意工夫を凝らした学習発表会・文化発表会を実施することができた。 ②令和5年度に向けた準備・検討委員会を立ち上げ、計画通り進めることができた。 | ①及び② 全ての学校で実施はできているが、コロナ禍の中で児童・生徒が主体となった発表会というよりは、教師主導となっている状況が少なからずある。令和5年度は、準備・検討委員会に、中学校生徒会等の代表者を参加させ、子供達同士で意見交換や提言等を行い、会を進めていくなど、生徒が主体となった取組を推進していく。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

令和4年度【年度末評価】事業評価表(自己評価表)

[基本方針] 3 健康づくりや体力づくりを進め、たくましく健やかな体を育てます

世羅町教育委員会 <学校教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|------------------------|---|--|-----|---|--|
| (1) 防災教育・安全教育の推進 | ○コミュニティ・スクールの有効活用 | ①コミュニティ・スクールを生かした防災教育の見直し・改善を図る。 ②交通安全に関する意識を高揚させるため関係機関との連携を図る。 | 4 | ①全ての小・中学校において、見直し・改善を図ることができた。さらに、令和5年度に向けた実施計画案も作成することができた。 ②全ての小・中学校において、関係機関（警察・自治センターなど）と継続的な連携が図られている。 | ①世羅町ならではのコミュニティ・スクールを充実させることができるよう、令和5年度も進捗管理を徹底する必要がある。 ②学校によっては連携が警察署のみだったり、各自治センターとの連携も併せて図っていたりと温度差がある。交通安全についてもコミュニティ・スクールを活用した在り方を指導・助言する。 |
| (2) 基本的生活習慣の育成・食育指導の充実 | ○望ましい生活習慣を育む啓発活動の推進 | ①情報セキュリティ及び情報モラルの指導を各学校で年間1回は実施するとともに、保護者懇談会等を活用し指導の状況等を周知する。 ②夏季及び冬季休暇も含めた生活習慣及び食育指導を各学校で各学期に1回実施し、保護者懇談会や各種便り等で指導内容を周知する。 | 3 | ①全ての小・中学校において、年間複数回の情報セキュリティ及び情報モラルにおける研修を実施することができた。令和4年度は「著作権・肖像権・SNSの使い方」等、各学校で工夫を凝らした研修を実施した。 ②保健室だよりを活用したり、栄養教諭に依頼し食育指導を図ったりするなど周知できている。またお便り等と併せて、保護者懇談会等も活用し、周知を図っている学校もある。 | ①研修の充実は図れているものの、コロナ禍の状況の中で、保護者へ周知できていない学校もある。今後は保護者懇談会等を活用するなど、面と向かって話ができる場を良い機会として捉え、実施を促していく必要がある。 ②子供達が自ら互いに啓発し合えるよう、委員会活動や生徒会活動の一つとして取組を推進していけるよう指導・助言を行う。 |
| (3) 体力・運動能力の向上 | ○運動好きな児童生徒の増加と体力づくりの推進 ○休日の運動部活動の地域移行に向けた連携・協議 | ①運動やスポーツが好きと思う児童生徒の割合を85%以上にする。(R3:80%前後) ②地域移行に向けた受け皿や今後の取組の方向性等について社会教育課と月1回連携・協議を図る。 | 4 | ①7校の平均は87.9%（中間86.8%）であった。（小学校：94%（中間91.8%）、中学校：81.8%（中間同数値）割合が向上した要因の一つとしては、コロナ感染拡大防止の観点から、なかなか運動ができにくい状況が随分緩和され、活動できるようになったことであると考えます。 ②教育委員会内に学・社一体となったプロジェクトチームを発足させ、全7回実施する中で、現状と課題を整理し「部活動の地域移行推進協議会設置要綱（案）」を作成することができた。 | ①小・中学生を比較すると10ポイントの差が生じている。その要因として、男女間での意識の差があると捉えている。引き続き、運動ができる喜びや体を動かす意義、大切さを学ぶ授業改善を図っていく。 ②「推進協議会」を開催し、今後、地域移行に向けた明確な目標・ゴールを設定する必要がある。そのために令和5年度中にすべきスケジュールを作成していく。また、併せて短期・中期・長期目標を定める必要がある。 |
| (4) 学校給食センターの整備 | ○学校給食センターの整備進捗状況管理 | ①学校給食センターの整備に向けた整備基本計画の策定と、それに沿った整備推進を図る。 ②町長部局との緊密な連携体制の確立を図る。 | 3 | ①概ね計画通り達成することができた。 ②必要に応じて、緊密な連携を図ることができた。 | ①及び② 引き続き、定期的にスケジュール管理及び進捗確認を行い、遅滞なく事業を進めていく。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

令和4年度【年度末評価】事業評価表(自己評価表)

[基本方針]

4 郷土への誇りと国際感覚をもった人材を育てます

世羅町教育委員会 <学校教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|---------------|--|---|-----|--|--|
| (1) ふるさと学習の推進 | ○地域の特色を生かした「ふるさと学習」の実施 | ①コミュニティ・スクールを生かした特色ある「ふるさと学習」を計画・立案し、実施する。 | 2 | ①全ての小・中学校で計画していたが、コロナ感染対策対応に伴い、目標と内容等の調整が上手くいかず、予定していた体験学習等を、内容を変更して実施した経緯があり、計画全てを実施することはできなかった。 | ①「総合的な学習の時間」を中心に「ふるさと学習」を実施しているが、コロナ感染対策が緩和しつつあることに伴い、令和5年度は、各教科においても実施できるよう教育課程の見直しを図っていく必要がある。 |
| (2) キャリア教育の充実 | ○町主催の進路指導主事等研修の実施 ○高等学校まで見据えたキャリア教育研修の実施 | ①本物体験学習を実施する。 ②これから求められるキャリア教育を推進していくため、町内全ての教諭に対しアンケートを実施し、自分の言葉で自校におけるキャリア教育の充実とは何かを文章化できる割合を100%にする。 ③世羅高等学校との連携事業を計画し実施する。 | 2 | ①計画通り令和4年10月26日及び27日に実施することができた。児童の感想から、改めて伝統文化を継承することの意義や大切さを学んだことが伺えた。 ②67% (中間59.2%) と低い割合になっている。小・中学校で認識の差がある。(小:75.25%, 中:56%) ③実施割合は100% (中間71.4%) である。令和5年度に向けて、各学校の特色等を踏まえた計画を立案し、さらなる世羅高等学校と連携を強化する。 | ①子供や教職員から成果と課題を情報収集し、次年度に生かす。 ②職業教育とキャリア教育は同義でない捉えが十分でない。教諭自身が何となく分かっているつもりのまま十分な指導ができていないことが課題である。校長会等を通じて改善を図っていく。 ③世羅高等学校との連携は、充実したものになりつつあるが、令和5年度は、教諭同士の関わりをさらに増やし、小・中・高まで一貫した取組の必要性等を校長会や町主催研修を通じて指導・助言していく。 |
| (3) 国際理解教育の推進 | ○小・中学校における外国語教育の充実及び英語検定の助成 ○姉妹校(ハワイ)連携・研修の実施 | ①町主催研修や県教委指定校(世羅西中学校)の取組と町内への普及・還元を通して、外国語教育の授業づくりにおける課題を整理する。 ②英語検定の助成による英語学習への意欲の向上を図ることを通して、英語検定受験率を10%増加できるように努める。 ③研修で得たことを発表・還元する場を設定し、生徒相互に質疑応答することを通して、英語でアウトプットできる力量形成を図る。 | 2 | ①外国語教育の充実に向けて、世羅西中学校(9/22)、甲山小学校(9/29)で研修を実施した。クラウドやデジタル教科書を活用した外国語科の授業づくりについて研究授業・事後協議を行い、町内へ普及・還元することができた。 ②年間3回チャレンジできる英語検定に対し、受験した児童生徒は90名(昨年度127名)であった。英語検定3級以上となった場合のハードルが高いことが受験率低下につながっていると考えられる。 ③外国語活動や英語の授業等で「話す・聞く」における授業改善を図っている教員の割合は92.3% (中間86.8%) であった。引き続き、児童生徒が自ら英語でアウトプットできる能力を育成していく。 | ①令和5年度は、外国語教育に係る町主催研修を増やし、さらなる英語でのコミュニケーション能力の育成を図る。理論研修を減らし、授業研究の回数を増やすなど授業力の向上・実践力の強化を図る。 ②及び③ 令和5年度も、世羅高等学校の英語科教員を招聘し、児童生徒の英語でのコミュニケーション能力の向上を図るため授業づくり研修を実施する。また、令和5年度世羅町中学校海外研修参加者には、英語検定3級取得又は見込者とし、英語検定取得率の向上を図る。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

令和4年度【年度末評価】事業評価表(自己評価表)

[基本方針]

5 教職員の力を最大限に発揮できる環境を整備します。

世羅町教育委員会 <学校教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|----------------------------|----------------------|--|-----|---|--|
| (1) 子供と向き合う時間を確保するための取組の推進 | ○教職員の時間外勤務時間の縮減 | ①教職員の時間外勤務時間の把握と縮減に向けて、月1回実施している校長会の全ての回において指導・助言する。 ②目に見える形で改善が図りにくい学校に対し、校長面談等を通じて指導する。 | 3 | ①毎月1回現状把握を行い、校長会議において指導・助言を図ることができた。 ②校長面談時においても、個々の職員の状況(性格)や仕事ぶり等を把握することができている。 | ①及び②目に見える形で改善が図られていない学校はないが、職員個々によって差がある。引き続き、校長面談やヒアリング等を通して、年齢や経験年数に応じた個別指導ができるよう校長と連携を密にしていく。 |
| (2) 教職員が教育活動に専念できる職場環境の充実 | ○ライフワークバランスにおける意識の醸成 | ①週1回の定時退庁日を徹底する。 ②夏季・冬季休暇等を含め、年次有給休暇取得率を昨年度より10%以上増加できるよう努める。 | 3 | ①上半期(5/7校)と比べ、下半期は、全ての学校で徹底できている。意識改革が進んだ。 ②7校中4校が前年度より取得率が向上している。一方で2校が現状維持、1校が低下しているが、一定の成果はできていると捉えている。 | ①部活動地域移行に向けて、社会教育課と連携を密にし、教職員の働き方改革の一助となるよう努める。 ②夏季休業を効果的に活用している学校がある一方、部活動や地域活動等に参加し取得率が上がっていない現状がある。効果的だった学校を好事例とし、各学校へ情報提供等を行い、改善を図っていく。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

〔基本方針〕 1. 豊かな知性を育む社会教育の推進を図ります。

世羅町教育委員会<社会教育課>

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--|---------|---|---|-------|----|----|------|---------|---------|---------|------|---------|---------|---------|--------------|------|------|------|--------|------|------|------|---|
| (1)町民の主体的な活動につなげる社会教育の推進 | ○関係団体と連携した学習事業の実施 | 町民の主体的な学びにつなげるため、各種講座の体系化を図り、成人教育の内容充実を目指す。 | 2 | 【世羅チャレンジ大学の支援】 世羅チャレンジ大学運営委員の方にも活動計画を立てる参考にしてもらえるように、まなびと大学講座を受講いただいているが、新型コロナウイルス感染症の影響もありチャレンジ大学の開催には至らなかった。 | 運営委員の方は、チャレンジ大学を開催したいという意欲を持っていると同時に、今までの視察研修を中心とした講座で計画を立てることが難しいと認識されている。今後は、現地に集まらなくても開催可能なオンライン研修などを検討していただく必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)読書活動の推進と図書館機能の充実 | ○様々な機会を通じた読書活動の推進、図書館サービスの充実と特色ある図書館運営の推進 | 図書資料や館内設備の充実、「くらしの中に本がある」環境づくりに努めることにより図書館利用と読書活動の促進を図る。 | 4 | ①【読書活動推進事業】 ○貸出等日常業務 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>昨年度実績</th> <th>目標</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来館者数</td> <td>20,515名</td> <td>20,987名</td> <td>25,891名</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>50,509冊</td> <td>52,107冊</td> <td>62,846冊</td> </tr> <tr> <td>人口1人あたりの貸出冊数</td> <td>3.3冊</td> <td>3.8冊</td> <td>4.2冊</td> </tr> <tr> <td>新規登録者数</td> <td>183名</td> <td>195名</td> <td>170名</td> </tr> </tbody> </table> <p>世羅高等学校図書館との連携を始めることができた。初めての取組として「本の福袋」を実施し、好評を得た。</p> <p>○ブックスタート事業 健診を活用しての受け渡しにより対象者全員への受け渡しが可能となった。 目標:利用者登録率70%(対象者の世帯数で計算) 実績:77.1%(ブックスタート後に新規で利用者登録をされた世帯は12.9%)</p> <p>○せらのまちなちこち図書館 この事業を広く周知をするため、登録館の紹介を行うとともに、全体のマップ作製を行う。</p> <p>○図書館講座の実施 子ども司書養成講座 目標:全小学校からの児童の参加 実績:3小学校/4小学校 大人のための絵本講座 参加者目標:15名 実績:15名(参加希望18名)</p> <p>○図書館支援事業 やまねこ母さんのおはなし会 参加者目標:60名 実績:35名 参加者には好評を得たが、マンネリ感も見られ、参加者も減少してきた。</p> | 項目 | 昨年度実績 | 目標 | 結果 | 来館者数 | 20,515名 | 20,987名 | 25,891名 | 貸出冊数 | 50,509冊 | 52,107冊 | 62,846冊 | 人口1人あたりの貸出冊数 | 3.3冊 | 3.8冊 | 4.2冊 | 新規登録者数 | 183名 | 195名 | 170名 | ○貸出等日常業務 図書館内のポップの工夫や除籍による書架の整理の精力的な実施等により、来館者数、貸出冊数は成果指標を上回った。引き続き図書館内の魅力度の向上に努める。 新規登録者数は昨年度実績並びに目標値を下回った。ブックスタート事業のように、直接呼びかけを行う機会が設定できないかなど、有効的な取組みについて、他市町の事例を含め、情報収集に努める。 |
| 項目 | 昨年度実績 | 目標 | 結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 来館者数 | 20,515名 | 20,987名 | 25,891名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貸出冊数 | 50,509冊 | 52,107冊 | 62,846冊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人口1人あたりの貸出冊数 | 3.3冊 | 3.8冊 | 4.2冊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新規登録者数 | 183名 | 195名 | 170名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)社会の変化に対応する学習機会の提供 | 社会の動きや生活・地域課題に対応した人権講座の実施 | 社会や生活様式の変化に対応できる人材育成につながるような講座等の内容充実を目指す、参加者を増加させる。 | 3 | 【世羅まなびと大学】 新型コロナウイルス感染症対策のため、通年の学習計画は立てず、独立した講座を開催している。 ①zoom講座 日時 4月24日(日) 講師 植永真由美さん(世羅町社会教育委員) 参加者目標:14名(各回7名) 実績:12名(第1部7名、第2部5名) ②「今高野山の歴史展」関連講演会 ※歴史館講演会と共催 日時 8月20日(土) 講師 伊東史朗さん(和歌山県立博物館長) | ①zoom講座 文化センター小ホールを会場として、参加者にインターネット接続してもらったが、同時接続台数に限界があり、回線切れが多発した。今後もインターネットを利用した講座、研修を開催する機会はあると考えるので、文化施設のWi-Fi環境整備工事の実施に取り組む。 世羅まなびと大学のベースとなっていた世羅チャレンジ大学が動いていない状況の中、連続講座としての「世羅まなびと大学」実施は厳しいと考えられる。新たな講座実施方法、仕組みを検討していく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【地域人権講座、人権講演会の開催】 ○地域人権講座 各地区自治センターと連携し、開催した。(目標:9地区、実績:7地区) ○人権講演会(目標:270名、実績318名) 映画上映と講演(映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。」 講演 映画監督 信友直子さん) 12月18日(日)に社協フェスティバルと連携し、開催した。 11月の町広報にて人権講演会の開催について広報を行った。 | ○地域人権講座 すべての地区で開催できるよう、各地区自治センターと連携を図っていく。 ○人権講演会 町民の関心の高いテーマを選択することにより、参加者の増加を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている

年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|-----------------------|-----------------------------------|---|-----|---|--|
| (1)優れた文化・芸術にふれあう機会の提供 | ○ホールや町民ギャラリーを活用した音楽・芸術作品等の鑑賞機会の提供 | 優れた芸能、芸術作品等の鑑賞機会を提供することで町内の文化振興を図る。 | 3 | <p>【文化芸術鑑賞事業】</p> <p>○ホール事業 文化公演／神楽公演 6月12日(日)開催 会場:せら文化センター 入場者目標:190名(540席×50%×70%) 実績:269名 町内の人に多く鑑賞してもらいたいと思い、町内の広報を優先して行った結果、より多くの方が鑑賞できたと感じる。</p> <p>○親子で楽しむ芸術公演(三次おやこ劇場巡回公演) 7月3日(日)せら文化センター 人形劇団のはな 人形劇「ともだちげきじょう」 入場者目標:70名 実績:50名 来場者は目標に届かなかったが、子どもが楽しめ、小道具も楽しむことができるよい内容だった。</p> <p>○第10回新県美展(第73回広島県美術展)世羅巡回展 優れた美術作品を展示することにより、町民の創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供し、芸術文化の向上を図るため、7月6日(水)～7月10日(日)の期間で、せら文化センターにおいて開催した。 来場者数目標:200名 実績:191名(内訳:一般来場者168名、高校生8名、小中学生15名)</p> <p>○町民ギャラリーの運営 25団体・個人が展示 鳥インフルエンザの影響で2ヶ月間の休館や予定変更をおこなった。 来館者数:1,714名(成果指標の85.7%) 来館者数は概ね順調であった。展示作品も好評を得た。</p> | <p>(舞台芸術鑑賞)</p> <p>○ホール事業 来年度も町民が鑑賞したいと感じる事業を実施したい。</p> <p>○親子で楽しむ芸術公演 公演内容は公演依頼先(三次おやこ劇場)に一任しているため選択できないが、より多くの方が鑑賞できるように広報の方法を工夫する必要がある。</p> <p>○新県美展(広島県美術展)世羅巡回展 他のイベントと時期を合わせて開催するなどして来場者の増加を図る。</p> <p>○町民ギャラリーの運営 幅広い年代の方が鑑賞できるような内容や広報を工夫していく。</p> |
| (2)文化・芸術活動の推進 | ○文化団体との連携・支援 | 文化団体等の主体的な活動を支援することで町内の文化振興を図る。 | 3 | <p>【文化団体の活動支援】</p> <p>○世羅町文化協会の活動支援 教育委員会と共催で総合文化祭を開催した。40団体187名が参加。 3年ぶりの開催で参加者も来場者も楽しさを感じた様子だった。</p> <p>○せら美術協会の活動支援 団体数の減少等により、今年度から運営委員は全団体代表及び個人会員とした。全員で協会の運営を進めていく。</p> | <p>○世羅町文化協会の活動支援 団体数及び会員の減少対策が必要。また主体的な活動が概ねできているが、継続して支援していく必要がある。</p> <p>○せら美術協会の活動支援 協会が主体となって活動を継続していくような支援が必要。また新規会員の確保に向け、会員の声かけや新規団体の掘り起こしなどを行う。 協会の主催事業が1事業と減少している。新たな事業に取り組むよう支援を継続していく。</p> |
| (3)文化財の調査・保護と活用 | ○指定文化財等の保護、大田庄歴史館・世羅町郷土民俗資料館の活用 | 指定文化財等の保護に取り組むとともに、定期的に企画展示や講演会を実施し、ふるさと学習を進めることで文化財保護への認識を高める。 | 3 | <p>【指定文化財等(未指定文化財・希少動植物を含む)の保護】</p> <p>○宗教美術(約50点)、建築物(10件)、史跡(2件)、考古資料(1件)、自然系物件(3件)の調査を行った。 町内史跡等草刈り作業:6か所(康徳寺古墳・善法寺・目鏡橋・光友の石畳・瓜が久保古墳・新山積久和池)を実施した。 世羅町指定文化財補助金の活用による今高野山龍華寺本堂屋根瓦修理を実施した。</p> | <p>有形文化財については、大田庄歴史館の企画展開催準備に当たり、展示候補の資料を中心に寸法と写真、保存状態を記録に残したがデータ化するに至っていない。文化財保護委員会委員の方々とのデータ共有を行うためにも、調査・記録作業後、即座にカード化などのデータ化ができる体制を作る必要がある。 調査を進めるにあたっては、史跡や自然系の候補が周辺環境含めて時期が限定されることが多いため、スケジュールを組む際に最優先とするなどの配慮が必要であった。</p> |

※評価基準
 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------------|--|--------|--|------------|-------|----|----|------|------|--------|--------|---|
| (3)文化財の調査・保護と活用 | ○指定文化財等の保護、大田庄歴史館・世羅町郷土民俗資料館の活用 | 指定文化財等の保護に取組むとともに、定期的に企画展示や講演会を実施し、ふるさと学習を進めることで文化財保護への認識を高める。 | 3 | <p>【大田庄歴史館の施設整備、展示施設の活用】</p> <p>○施設整備 大田庄歴史館が保管する文化財及び文化財資料等の整理を行う。また、老朽化した設備の改修を行い、展示環境の改善及び施設の安全性の向上を図るため、2階ロビー・企画展示室の空調設備改修を行った。</p> <p>○展示施設の活用 第65回企画展「せらの仏教美術展」 会期:4月8日(金)～7月18日(月・祝) 企画展関連講演会 5月14日(土)13:30～ 演題:「世羅町内の仏教美術について」 講師:中田 利枝子さん(広島県文化財保護審議会委員・就実大学講師) 参加者目標:35名(100席×50%×70%) 実績:37名</p> <p>○講座関係 ① 丹生神社木造丹生明神坐像木造高野明神坐像及び龍華寺木造十一面観音立像修理完成記念事業 8月20日(土)講演会:10:00～11:30 現地見学会:13:30～14:30 演題「新指定重要文化財 丹生神社の丹生明神、高野明神像について」 講師:伊東 史朗さん(和歌山県立博物館長) ※せらまなびと大学と連携 参加者目標:67名(192席×50%×70%) 実績:47名 ② 学芸員と歩く「山城探訪」-下津田茶臼城跡編- 会場:津名自治センター・茶臼城跡 講師:谷本 寛さん 11月19日(土)13:30～16:00 参加者目標:30名(講師からの希望上限) 申込実績:28名(内7名が当日欠席)</p> <p>○大田庄歴史館来館者数</p> <table border="1" data-bbox="1041 1094 1798 1184"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>昨年度実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来館者数</td> <td>772名</td> <td>2,600名</td> <td>2,491名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○民俗資料館 世羅郷土民俗資料館事業「蓄音機の音をきいてみよう!」については、西大田地区文化祭に合わせて実施予定であったが、文化祭が中止となったため、中止とした。</p> | 項目 | 昨年度実績 | 目標 | 実績 | 来館者数 | 772名 | 2,600名 | 2,491名 | <p>【大田庄歴史館の施設整備、展示施設の活用】</p> <p>○施設整備 2階空調機の改修が完了したことにより、学習室利用しての企画展関連講演会の実施が可能となったが、収蔵スペースの不足から、企画展開催時には学習室を準備室として使用せざるを得ない。温湿度管理のいらない資料を収蔵できる場所の確保が必要である。</p> <p>○展示施設の活用 大田庄歴史館の来館者数は昨年度実績よりは伸びているが、目標には及んでいない。企画展示会等の開催期間にあわせた、歴史愛好・研究団体の研修会場としての利用の呼びかけを行うことで、来館者増につなげる。</p> <p>○講座関係 コロナ禍の中、開催の有無、開催方法などの判断を広報ギリギリの日まで迫られることになった。状況分析をより深く行い、開催・延期・中止等の広報手段の拡大も含めて対応する。</p> <p>○民俗資料館 学校だけでなく、老人クラブやサロン等の高齢者団体に向けた周知を行っていく。資料整理が完了できなかったことから、次年度での完了を目指す。</p> |
| 項目 | 昨年度実績 | 目標 | 実績 | | | | | | | | | | |
| 来館者数 | 772名 | 2,600名 | 2,491名 | | | | | | | | | | |

※評価基準

中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|------------------------|--------------------------|---|-----|--|--|
| (1)町民一人1運動・1スポーツ参加の促進 | ○各種スポーツ教室の開催、スポーツ施設の適正管理 | 自治センターや関係機関等と連携し、スポーツを楽しむ環境づくりを行い「町民一人1運動・1スポーツ参加」を定着させる。 | 4 | 【各種スポーツ教室の開催】 ○さわやかスポーツ教室(5月から2月までの期間で実施) 目標:各地区(13地区)で3回以上実施。(合計39回以上) 実績:11地区開催、合計開催回数27回 参加目標人数:390名 実績:560名 10月29日(土)に世羅町障害者社会参加支援事業(せらパラ)において、ボッチャ体験会を開催した。参加人数は80名。また、12月18日(土)社協フェスタにおいて、ボッチャ体験会を開催した。参加人数は23名。 | ○さわやかスポーツ教室 新型コロナウイルス感染拡大により、各地区で予定されていた事業が中止となり、また、開催しても参加者数が少ないなどの影響があった。感染状況が落ち着いた時期に予定を変更するなど柔軟な対応を検討していく。 外出機会の減少により、参加意欲の低下も考えられることから、単独開催のみならず他事業と連携して開催するなど参加者数の増加を図る。 |
| | | 将来的展望にたった施設の維持管理を行う。 | 3 | 【スポーツ施設の適正管理】 世羅町スポーツ広場5カ所の草刈業務を行うとともに、西大田スポーツ広場、東スポーツ広場の側溝清掃業務を行った。 世羅小学校夜間照明のLED化、宇津戸スポーツ広場バックネットフェンス改修、甲山テニスコート周辺樹木の剪定などスポーツ施設の整備を行った。 | プール周辺の草刈り作業が未実施となった。年間スケジュールを考慮しながら、必要人員の確保を早期に行う。 |
| (2)生涯スポーツの普及と指導者の育成・支援 | ○スポーツ推進委員の研修と成果を活かす場の拡充 | スポーツ推進委員の活動を効果的に進めることで生涯スポーツの普及を図る。 | 3 | 【スポーツ推進委員研修&派遣事業】 6月5日に、広島県パラスポーツ協会職員を講師に招き、障害者スポーツ「ボッチャ」の研修会を開催し、14人が研修を受けた。 また、7月2日(日)広島県スポーツ推進委員研究大会で「ボッチャ」の実技研修が行われ、7人が研修を受けた。 派遣事業については、開催目標回数:5回 実績:10回 | 「ボッチャ」の指導依頼が増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、十分な研修が行えず、指導できる委員が少数である。このため、派遣依頼に対し対応できる委員が限られている。研修機会の増加によりスキルアップを図り、指導できる委員を増やす。 |
| (3)競技スポーツの振興と関係団体の活動支援 | ○スポーツ大会の支援、スポーツ関係団体の活動支援 | 各種スポーツ大会の開催や大会への参加を通じて、競技スポーツへの関心を高める。 | 3 | 【スポーツ大会の支援、スポーツ団体の活動支援】 ○中国実業団駅伝競走大会 11月13日(日)に開催。 第61回中国実業団対抗駅伝競走大会を中国実業団陸上競技連盟と協力して、事故なく大会を終えることができた。 ○中国女子世羅駅伝競走大会 令和5年2月19日(日)に開催。 スタート・ゴールであるせら文化センターが、鳥インフルエンザの発生に伴う消毒ポイントになり、開催決定がギリギリとなった。広島陸上競技協会と協力して、事故なく大会を終えることができたが、確認・連携不足で準備物の不足等が生じ、急遽の対応を行うことがあった。 ○スポーツ少年団の活動支援 登録団員数の推移(全6競技分) H30 317名 → R1 336名 → R2 276名 → R3 290名 → R4 260名 登録指導者数 32名(スタッフ・役員55名) 交歓会を実施した競技:野球・バレー・サッカー ○スポーツ関係団体の活動支援 世羅町体育協会の活動が安定的に継続できるよう組織及び事業の再編し、体協の3支部及び専門部を廃止し、支部主催事業を体協の事業として取り組む体制に再編する。7月の総会において世羅支部の廃止及び世羅町スポーツ協会への名称変更を行った。甲山支部、世羅西支部及び専門部会については、次年度の総会で廃止となる。 各支部主催の事業については、開催に向けてコロナ対策や交通規制強化を図り、各担当が支援する。 ○アスリート育成支援事業 研修会、講座の支援 目標:3回 実績:2回 指導者養成のための研修参加 目標:5名 実績:4名 団体活動向けの一般的な様式での補助金申請となっており、指導者育成の研修参加費用等個人に向けて支払が生じるものに対して、手続きが煩雑となりアスリート育成支援事業の活用をされない例があった。 | ○時間と労力をかけないような交通整理員の確保方法が必要であるため、早い時期から依頼を行う、各地区の募集走路員数の増に取組む、各地区から必要人員がスムーズにでてくる組織づくり(世羅町スポーツ協会への完全移行)等について、理解を得ながら進めていく。 ○広島陸上競技協会と世羅町の役割分担について、再度の確認・調整を行う。 ○スポーツ少年団の活動支援 スポーツ少年団登録に必要な認定員資格が廃止となる関係で、代替資格であるコーチングアシスタントへの移行、新規取得者向けにスタートコーチ研修会の案内をしているが、参加される方が少ない。部活動の地域移行のこともあるため、指導者確保は継続的に取り組んでいく必要があると考える。今後も役員会等で移行、研修の参加を呼びかけていく。 ○世羅町スポーツ協会として、支部主催事業を行っていくにあたり、各事業の運営体制を整備する必要がある。また、町内のスポーツ関係団体と連携し、町のスポーツ振興施策を担う団体となるよう支援する必要がある。 ○中国大会以上出場者予定者数の把握が難しいため、研修会の実施を見合わせていただかざる得ない状況がある。指導者研修への参加者増に向けて、スポーツ少年団等への呼びかけを強化する必要がある。 指導者育成の研修参加費用等の個人向けの支払いが生じるものについて、要綱改正を行った。 |

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている

年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

| 重点施策 | 取組方策 | 取組目標 | 達成度 | 結果と成果 | 今後の課題と改善方策 |
|---------------------|----------------------------|---|-----|--|--|
| (1)社会全体で子供を育てる意識の高揚 | ○放課後子供教室の実施支援、子ども会育成会の活動支援 | 学び・体験・交流・遊びの場を通して地域全体で子供たちの成長を支えることで、地域の教育力の向上と地域コミュニティの活性化を図る。 | 3 | 【放課後子供教室の実施支援】 ○地域運営型放課後子供教室 (1)伊尾小谷地区放課後子ども教室 運営主体:伊尾小谷地区コミュニティづくり推進協議会 実施期間:通年(日曜日、お盆、年末年始を除く)、平日(15:00~18:00)、土・長期休み(8:30~17:30) 実施場所:伊尾自治センター 実施内容:見守り活動、学習支援、体験活動など 教育委員会支援:図書団体貸し出しなど (2)津名地区夏休み子ども教室 運営主体:津名地区振興協議会 実施期間:夏休み 実施場所:津名自治センター 実施内容:学習支援、工作などの体験活動 (3)宇津戸地区放課後子供教室 運営主体:宇津戸子ども会育成会 実施期間:通年 実施場所:宇津戸自治センターほか 実施内容:学習支援、体験活動など 黒川地区、小国地区は令和4年度は実施に至らなかった。 | 令和4年度もコロナ対応が発生した。放課後子供教室の運営主体には急遽の対応をお願いすることになるので、学校、教育委員会を含めた連絡をスムーズに行えるよう連携する。 新たに放課後子ども教室に取り組もうと思われている地域があれば、事業説明を行い支援する。 国・県から発信される放課後子供教室に関する情報を各運営主体に提供するとともに、支援員向けの研修情報等も発信する。 |
| | | | 3 | 【世羅町子ども会育成会の活動支援】 わくわくフェスティバル:新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった。 ふれあいナイトウォーキングは、3月18日に4年ぶりに開催された。 参加者:大人10名、子供17名、スタッフ20名 新型コロナウイルス感染症流行前と比べて、参加者数が減った。 各地区役員間での引継ぎが上手く行われていない部分が見られる。 | コロナ渦でも行える事業の模索並びに現在計画している事業の実施方法について、検討をしていく必要がある。 各地区役員への周知方法について改善していくとともに、役員会の開催方法もWEB開催含めて検討をしていく。 事務局として、補助事業実施についての基本的な事項について総会等で徹底していく。 |
| (2)家庭教育研修の充実 | ○幼保・小・中の保護者を対象とした研修会等の支援 | 計画的な研修の実施を促し、より多くの保護者が参加できるよう努める。 | 1 | 【世羅町家庭教育推進協議会の活動支援】 講座の実施(2団体) ・世羅西中学校PTA教育講演会 10月28日開催 参加者26名 「PEPTALK思春期のわが子へ送る親からのエール」 ・いお保育所講演会 1月20日開催 参加者22名 「自立と自律のできる子どもたちに」 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動母体であるPTAや保護者会の活動そのものが行われていないことの影響が大きかった。 | 実施は2団体のみであった。 各団体が講座・研修を企画する参考となるように、県が主催するオンライン研修会に合わせて協議会を開催するなど、開催方法について検討する。 各母体からの代表者選出を待っては、会の開催がままならない。実施を計画されている団体のためにも、一定時期には選出された団体のみにおいても活動を行うようにしていく。 |
| (3)活動支援ボランティアの育成 | ○家庭教育支援者及び支援チームの育成・支援 | 家庭教育支援チームの活動を支援するとともに、学習プログラムが活用されるよう広報等を行う。 | 3 | 【世羅町家庭教育支援チーム・Pクラブせらの活動支援】 ○子育て広場での講座 実施日 5月25日(水) 参加者 8組 ○ファシリテーター養成講座の実施 実施日 9月15日(木) 9月29日(木) 参加者 4名 ○県主催の研修会への参加(オンライン含む) ○定例会 7回開催 Pクラブせらのおすすめブックリスト作成について協議をすすめている。 | 毎月行っている定例会の参加者が固定化されてきており、多くても4人しか集まらない状況が続いている。人数が集まらないのでモチベーションも低下し、会議も建設的なものになっているとは言い難い。今年度養成講座を開催したことでファシリテーター資格を持っている人は4人増えたが、新規メンバーの勧誘と並行して既存のメンバーが定例会に戻ってきてくれるよう働きかけることも必要。読み語りを軸とした新たなプログラムの研修も深まってきている。家庭教育推進協議会をはじめとする関係団体に向けて、活動内容のPRを積極的に行っていく。 |

※評価基準
 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る